

この4か月間の留学で多くの貴重な体験をしました。その中でも印象深いことをいくつか書きたいと思います。

ウラジオストクに到着してまず驚いたことは、建造物についてです。中心街には多種多様なヨーロッパ建築が立ち並んでいて、「日本から一番近いヨーロッパ」という言葉を瞬時に納得できました。しかし観光地を少し離れた場所では歩道が陥没していたり、歩道橋の階段に穴が開いていてそこから車が走行する様子が見えたりと、危険な個所が見受けられました。建物内の階段の間隔が段差ごとに異なっていたりもして、日本ではあまり見ることができない光景に驚かされました。

また、食料品の安さにも驚かされました。スーパーでは野菜や主食などが非常に安かったです。例えば玉ねぎやじゃがいもなどは日本円で換算すると、1キロで60円ほどでした。野菜や果物などは量り売りで、店内の機械を使用して自分で重さを量ります。大きな塊肉が敷き詰められた冷凍食品コーナーや、広い陳列台の上に転がる大きなチーズの塊は、日本ではなかなか見慣れない光景でした。スーパーでの買い物も観光のようで楽しかったです。安い食材や、日本では見慣れない食材を使っの料理も楽しかったです。特にロシアでポピュラーなオリビエ・サラダを作ったことはいい思い出です。

安いのは食料品だけではありませんでした。芸術鑑賞の代金もとても安かったです。例えばアルセーニエフ記念国立沿海地方博物館は学割がきき、約200円で館内全体を鑑賞できました。クラシックコンサートは日本円で約1000円でしたし、オペラとバレエは普通席で1200円程度でした。芸術は心を豊かにするものの一つだと考えているので、誰もがそれに簡単に触れられることは、とても素晴らしくて羨ましいことだと思いました。

この留学で最も大きな苦難と成長を与えてくれたのは、人との関わり合いです。現地に到着した当初はロシア語が全く聞き取れず、非常に不安でした。少し言葉が理解できるようになっても、今度は伝えたいことを言葉にできないという悔しさに苛まれました。そして言葉が分かるということがどれほど有難いことかを知りました。この苦しみは留学中の言語学習の大きな糧になりました。そしてこれからのモチベーションにもなるでしょう。

外国人とのルームシェアも私を大きく成長させた要素の一つです。私は留学前に外国人とのルームシェアを希望し、実際に韓国の留学生と生活することになりました。外国人との共同生活は滅多にできない経験だと考えたからです。しかし経験してはじめて、言語と文化が異なる人と生活をともにすることの大変さを知りました。しかしこれによって、相手に対して自らの要望を率直に伝えることができるようになったし、異文化理解の重要性を知ることができました。これらの関わり合いなくしては、私は大きく成長できなかったでしょう。

私のウラジオストクでの4か月間は楽しさ半分、辛さ半分といえます。しかし、心から参加してよかったと思っています。それほど価値ある体験ができました。



→ウラジオストクの中心街の街並み



→スーパーの冷凍コーナーの様子